

棚倉城跡石垣解体工事現地説明会 資料

令和7年10月25日 棚倉町教育委員会 生涯学習課

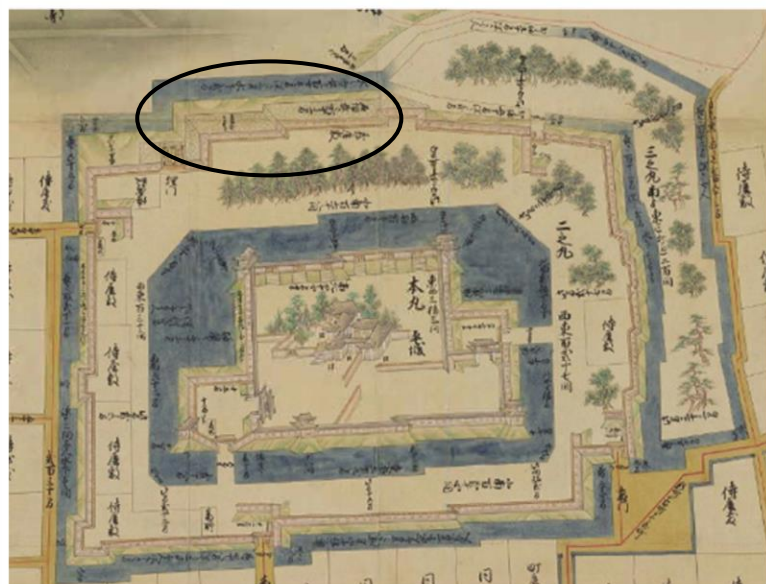
1. 棚倉城跡について

名 称	棚倉城跡(たなぐらじょうあと)
種 別	城郭(近世城郭)
調査面積	約 180 m ²
調査原因	石垣整備事業に伴う調査
時 代	近世
遺 構	石垣
遺 物	永楽通宝
調査担当	棚倉町教育委員会生涯学習課

棚倉城跡は、久慈川の河岸段丘上に築かれた、本丸・二ノ丸・三ノ丸(林曲輪)からなる輪郭式平城です。

寛永2年(1625)、馬場都々古別神社を現在の社地に遷宮し、新規築城されました。江戸時代に入ってから築城は全国的にも大変珍しい事例となっています。本丸には天守ではなく御殿を築き、政治を行っていました。城主は8家16代替わり(244年間)、慶応4年(1868)戊辰戦争により落城しました。

お城を囲む土塁・水堀・土塁上に存在した多門櫓が築城当時の様子をよく留めていることが評価され、平成31年(2019)2月26日に国の史跡として指定されました。



正保城絵図(丸で囲んだ箇所が石垣)

二ノ丸西側の一部には総延長約160mに亘って石垣が築かれています。石垣は野面石主体の「布積み崩し」で、随所に「鏡石」を配するなど、文禄・慶長期の石垣のような古式の特徴を有しています。平成23年の東日本大震災、令和3年及び令和4年の福島県沖地震により、一部が崩落しました。そのため、令和5年度より、石垣整備事業を進めています。

令和5年度は被災状況の記録や測量を行い、令和6年度は崩落石材の撤去作業や石材カルテを作成しました。

今年度は、今後崩落の恐れのある石垣の解体工事を行っており、それに伴い発掘調査を実施しました。



正保城絵図に描かれた石垣



崩落した石垣の様子①



崩落した石垣の様子②

2.調査概要

今年度は、7月から9月にかけて石垣の解体工事を行ってきました。解体した石材(築石)は計 578 個になります。解体に合わせ石垣背面部の発掘調査も実施しました。

調査の結果、石垣の裏込め幅は約 1.0m～1.5mであることがわかりました。また、裏込めの背面は複数の層に分かれて盛土がされていることもわかりました。盛土層の構築土としては、川砂が用いられており、河岸段丘の堆積層に由来するものと推測されます。

また、石垣の下部では、根固めのためと考えられる栗石が堆積しており、築城時の丁寧な工事の様子が見て取れます。なお、調査時には「永楽通宝」が 1 枚出土しています。

発掘調査に合わせて、解体した石材の岩石種・大きさ・重さ・加工痕などを調べる石材カルテ作成調査も実施しています。今年度の調査は現在実施中ですが、昨年度の崩落石材撤去作業の際に回収した石材を見ると、石垣に使われている岩種類には、砂岩(割合 42%)や安山岩(13%)などがあることがわかりました。重さが一番重いもので約 1.2t、平均 170kgです。石材は久慈川上流のものと考えられます。

また、多くの石材の表面・控え(裏側)にはノミやセツウ等によるハツリ(加工痕)が見られ、一部には矢穴も確認されています。

築城開始から丹羽長重が白河に転封になる寛永 4 年(1627)の間に棚倉城の基本的な形は完成していたとみると、わずか 2 年あまりという限られた期間の中で、藩の財政的にも、築城の資源的にも制約がある中、大規模土木工事を成し遂げたことになります。

今後は、令和8年度・9年度に積み直し、令和 10 年度に一般公開の予定となっています。



石垣遠景(枠内が解体範囲)



石垣断面



裏込め石



石垣背面の盛土

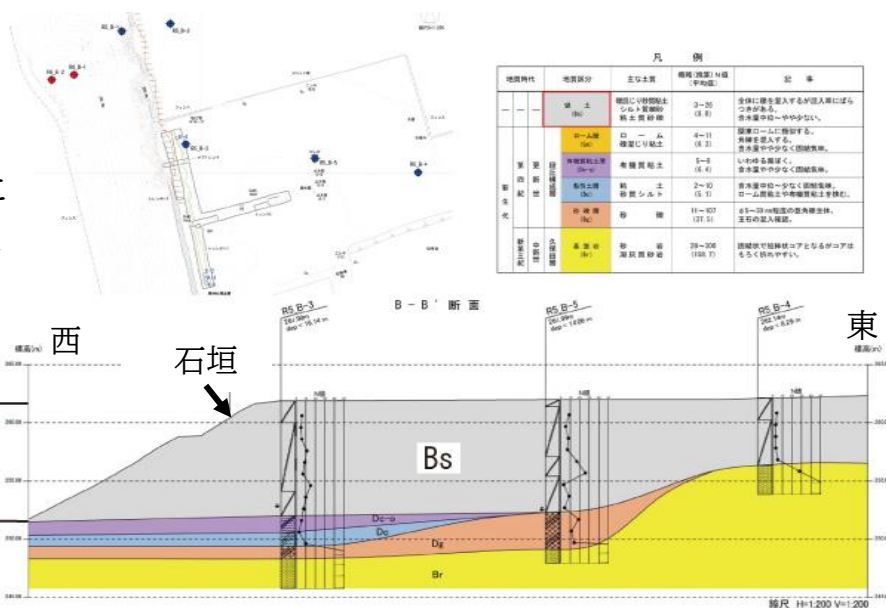


石材カルテ作成の様子



加工痕(矢穴)が見られる築石

Bs と記載されているのが盛土層になります。約 10m の盛土の上に石垣が築かれているのが分かります。



石垣付近の推定断面図

■石垣解体工事の様子(タイムラプス動画)を公開しています。

※『YouTube』に移動します。(福島県棚倉町生涯学習課のページ)

<http://www.youtube.com/@E7%A6%8F%E5%B3%B6%E7%9C%8C%E6%A3%80%89%E7%94%BA%E7%94%9F%E6%B6%AF%E5%AD%A6%E7%BF%92>



■【石垣に関する用語解説】

【石垣の構造】

石垣は基本的に、表面に見える築石、その背面に裏込め石(栗石・砂利層)、さらに盛土または地山の3層から成っています。棚倉城跡の場合は盛土⇒築石配置⇒裏込め充填を段階的に繰り返しながら造られています。

【石材加工具合による石垣の種類】

自然石をそのまま積む「野面積み」、割石(粗割石・粗加工石)を用いる「打込ハギ」、切石を用いる「切込ハギ」に大別されます。棚倉城跡の場合は自然石を主体としながらも、一部割石を使用しています。特に角石(隅角部に使われる石材)はノミで丁寧に加工しています。

【石材の積み方による石垣の種類】

石材の横目地(水平方向の目地)が通っているかどうかで「布積み」と「乱積み」に大別されます。その他の積み方としては「亀甲積み」や「谷落とし積み」などがあります。棚倉城跡の場合は「布積み」の一類型である「布積み崩し」です。

【石材加工・運搬道具】

加工の道具としては、セツウやゲンノウ、ノミ等があります。運搬方法については石釣りや土ざりなどがあります。棚倉城跡の石垣では、ところどころに「矢穴」がある石材があります。大きな石材はノミで複数の「矢穴」を掘り、そこに鉄矢(クサビ)を差し込み、ゲンノウで叩いて割りました。なお、久慈川上流と考えられる石材を、どのような方法で運搬してきたかは現在のところ分かっていません。

棚倉城略年表

年次	西暦	事績
令和五年	二〇二三	石垣整備事業着手。
令和四年	二〇二二	
令和三年	二〇二一	福島県沖地震により、二ノ丸石垣の一部が崩落。
平成三十一年	二〇一九	二月二十六日、国史跡に指定される。
平成二十七年	二〇一五	本丸土塁上の多門櫓確認調査。
平成二十五年	二〇一三	本丸平場の中央公民館の解体・図書館の移築に伴う調査。
平成二十四年	二〇一二	国指定史跡化を目指して調査を開始。
平成二十三年	二〇一一	東日本大震災により、二ノ丸石垣の一部が崩落。
近代以降		藩校修道館や競輪場など、公共施設に使われた。
慶応四年	一八六八	六月二十四日、戊辰戦争により棚倉城落城。
慶応二年	一八六六	松平康英、武蔵国川越藩へ転封。陸奥国白河藩より阿部正静入封。
元治元年	一八六四	松平康英、康泰の跡を継ぐ。
文久二年	一八六二	松平康泰、康圭の跡を継ぐ。
嘉永七年	一八五四	松平康圭、康爵の跡を継ぐ。
天保七年	一八三六	松平康爵、石見国浜田藩より入封。(三方領地替え)
文政三年	一八二〇	井上正春、上野国館林藩へ転封。 松平齊厚、上野国館林藩より石見国浜田藩へ移封。 井上正甫、遠江国浜松藩より入封。(三方領地替え)
文化十四年	一八一七	小笠原長昌、備前国唐津藩へより転封。 水野忠邦、備前国唐津藩から遠江国浜松藩へ移封。 井上正甫、遠江国浜松藩より入封。(三方領地替え)
文化九年	一八一二	小笠原長昌、長堯の跡を継ぐ。
安永五年	一七七六	小笠原長堯、長恭の跡を継ぐ。
延享三年	一七四六	松平武元、上野国館林藩へ転封。遠江国掛川藩より小笠原長恭入封。
享保十三年	一七二八	太田資晴、上野国館林藩へ転封。上野国館林藩より松平武元入封。
宝永二年	一七〇五	内藤式信、駿河国田中藩へ移封。駿河国田中藩より太田資晴入封。
延宝二年	一六七四	内藤式信、信良の跡を継ぐ。
寛文五年	一六六五	内藤信良、信照の跡を継ぐ。
寛永四年	一六二七	棚倉城完成。 丹羽長重、陸奥国白河藩へ転封。近江国長浜藩より内藤信照入封。
寛永二年	一六二五	築城が開始される。 丹羽長重によりこの地にあった都々古別神社(近津神社)を遷宮の上、
元和八年	一六二二	丹羽長重、常陸国江戸崎より入封。五万石で棚倉藩主となる。